

# 活躍する専門技術者に聞く⑧

いのうえ

よしかず

## 井上 義一 氏 (ダイハツディーゼル株式会社)



いのうえ・よしかず 58歳 愛媛県出身

第8回はダイハツディーゼル株式会社に所属する井上義一（58歳）氏を紹介する。自家発電装置の試験・施工及びアフターサービス等に幅広く従事してこられた井上氏より、業務で得られた貴重な経験等お話を伺った。

### 1. 業務経歴

井上さんは昭和50年に愛媛県立八幡浜工業高校を卒業後、ダイハツディーゼル株式会社に入社した。「親戚が整備工場を経営していたこともあり機械には小さい頃から慣れ親しんでいて、車も好きでしたね。就職活動はオイルショックの不況で厳しかったのですが、関西に出たかったこともありダイハツディーゼルに決めました。」

入社時は開発部実験課（現：開発実験部）に配属された。実験課とはいえ、技術開発センター内ではなく、工場の生産ラインの一角に設置された試験場で、ディーゼルエンジンの強度や燃費等の各種性能試験を行っていた。新人時代の失敗談をお聞きした。「回転数を上げすぎてエンジンを焼き付かせて

しまったことがありました。当時でも数百万円の機械でした。当然上司からは怒られました。」

入社後に取得した資格については、現場代理人となるべく取得した一級電気工事施工管理技士のほか、平成8年に自家用発電設備専門技術者（K、M二部門）の資格を取得、特種電気工事士の資格も有している。平成25年度に国土交通大臣顕彰による「建設マスター（機械器具設置工）」を受賞した。

### 2. GTの開発に参画

入社当初より、同社ではガスタービン（GT）の市販化を計画しており、井上さんも入社7年目の昭和56年にガスタービンの実験担当となった。「当時は社内にガスタービンそのものを知っている者が少なく、私も学校ではガスタービンはほとんど学ばなかったし、実験だけではなく、設計や製造面も含め個人的に相当勉強しました。」

開発関係者の努力が実り、ガスタービン駆動発電装置一号機を昭和59年に発売した。今では小型から出力5,000kVAまで幅広く製品ラインアップを取り揃えるまでに至っている。入社当初は工場の中に閉じこもって実験をする日々が多かったが、徐々に設置現場にも赴き、機器の劣化や故障状況の検証業務も行うようになった。「お客様と接したい。直にお役に立ちたいと思うようになりましてね、サービス部門への異動を希望するようになりました。」

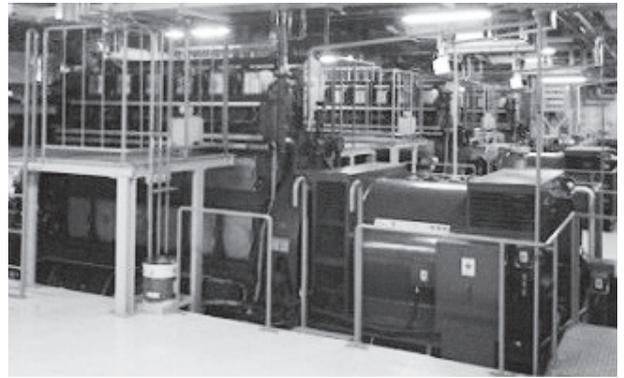
### 3. 高松支店時代

井上さん本人の意向もあり、平成4年に高松支店に転勤となり、四国エリアでの施工及びサービス担当となった。サービス業務については、最低でも月に1度は夜間勤務や休日の緊急対応があったという。

香川県の鋼管工場に納入した常用発電設備（ディーゼル機関駆動、2,500kW×1基）が故障した際のこと。施主は電力会社との契約電力値を出来る限り抑える為、工場の操業スピードを落とし復旧時間を分単位で聞いてきた。「施主様は生産調整しながらのやり取りですし、工員さんの勤務や資材の調達にも影響が出ますから、生半可な返事は出来なかったです。」



高松支店時代の出来事を語る井上さん



梅田スカイビルの常用ガス発電設備

発電設備は故障から3日後に無事復旧し、故障原因は部品の経年劣化であることを説明の上、部品交換についても施主から了承を取り付けたという。

井上さんは工事現場代理人としても多くの実績をあげている。主な施工事例を以下に紹介する。

- ・化成工場（徳島県板野郡）2,500kW×1基  
ディーゼル機関駆動常用発電設備
- ・複合ビル（愛媛県松山市。更新工事）  
1,200kW×1基  
ガスタービン駆動防災用発電設備
- ・総合病院（愛媛県四国中央市）500kW×1基  
ガスタービン駆動非常用発電設備

中でも松山市の複合ビルにおいては、既存設備の再利用も含めた工事であり、120tの大型クレーンを用いて慎重に既存設備を撤去し、入替設備の設置作業を行った。「クレーンの設置スペースが中々確保出来なくて、地元の協力会社と一緒に土地の所有者を説得し賃借したりと、大変な現場でした。」

#### 4. アフターサービス統括責任者として

13年の高松支店勤務を終え、平成17年に本社の海外部門も含めたアフターサービスを管轄する部署へ異動となり、平成19年からは責任者（管理職）として全体を統括する立場となった。官庁関係の物件を扱うことも多く、国土交通省航空局や日本放送協会（NHK）等の施設も対応した。「空港に納めている非常用発電設備のアフター対応では、地方の航空局の方と技術面を中心にやり取りさせて頂きました。本省の航空局へも責任者として何度も足を運びました。」

本社が入居する梅田スカイビル（大阪市北区）のガス機関駆動常用発電設備（1,500kW×3基）の更新工事の統括責任者としても従事した。同ビルはダイハツディーゼル社も建物所有者の一社である。「約20年経ったガスエンジンのリプレースでしたので、既存の設置スペースや配管を用いる為に様々な

工夫が必要でした。自分達のお膝元でありながら苦勞した物件です。」

#### 5. 後進へのアドバイス

若手社員への育成方法をお聞きした。「昔は体で覚えろっていう教育指導も多かった。特に現場でのノウハウについては世代間で技術力の格差が大きいですね。我々の世代が頭に入っていることをどう『見える化』して後進の技術者たちに正しく伝承していくことが大事です。まずは『要領書』を作成し共通ファイル化している最中です。」



社内の安全大会で講師を務める井上さん（右端）

最後に、後進へのアドバイスをお伺いした。「若い方は知識だけが先行してしまう傾向があります。知識習得の自己満足で終わってしまいます。現場作業が順調にいかないトラブルの発生時が一番勉強になり自身の為になるので、現場・現物・現実の『三現主義』に基づいて日頃の作業に取り組んで欲しいです。」



自家発電設備について様々な角度から携わってこられた貴重な実務経験を持つ井上さん。これからも「ものづくり」と「人づくり」のため、培った技術を磨き続け、継承していこうと努力される姿勢に共感を覚えた。